



熊野古道

女鬼峠

多気町



女の鬼が出る!? 女鬼峠

女鬼峠は石墨千枚岩を掘削して通した峠道。

巡礼者たちは、お伊勢参りをすませた後、伊勢路のスタート地点である田丸で巡礼衣装に着替え、熊野三山を目指したという。

その最初にあるのが、多気町にある女鬼峠だ。



言葉の変遷によって今の名に

女鬼峠は『勢陽五鈴遺響』多気郡東相鹿瀬の項には「子ギ峠」、『西国道中記』には「禰木峠」とあり、江戸期には「ねぎ峠」と呼んでいたようだ。

しかし嘉永2年(1849)の『西国三十三ヶ所名所図絵』には、「成川村を過ぎメッキ峠にかかる。上下二十町ばかりの平山にして、儉阻成らず。然れども往来少なく道筋寂し。」と記述があり、ねぎ峠→メッキ(めき)峠→女鬼峠と変遷したのがわかる。



そうすると、世間で言われているように「この峠には人を食う鬼がいる」と恐れられ女鬼峠と名付けられたわけではなく、後付けだったのか…との疑問がよぎるが、人の往来が少なく、薄暗い道のこと、鬼が出るよと言われてたら納得してしまいそうだ。

地蔵やわだちの跡が残る昔の道

とはいえ女鬼峠はそれほど険しい峠ではない。

古道には荷車のだちの跡や苔むした石積み、岩を掘削して通した切り通し、如意輪観音の石像などがいまだ残っていて、昔の誰かさんを想像しながら歩く道はとても楽しい。

行く先々のお地蔵さんにも、ほっこり。ハイキングにはもってこいの道だ。



千枚磐を掘削した切り通しに感動

峠の千枚磐を掘削した切り通しを見ると、当時の苦勞がしのばれる。

刻まれたノミの跡は今も生々しくその様子を伝えており、開通の喜びはいかほどだったろうかといふ想像してしまう。





峠を越えると、突然視界が広がり、紀伊の山々、そして日本一の清流・宮川が見えた。

素晴らしい景色に心も晴れ晴れしてくる。

さすが「新日本歩く道紀行100選文化の道」に選ばれた道！

幸せを手引きしてくれる柳原手引観音

そこから2kmほど行くと柳原手引観音千福寺がある。

ここは伊勢路の古刹であり、西国巡礼者が旅の安全を祈願した寺だ。「柳原の手引観音」と言われ、安産や縁結びで有名だが、住職によると「昔からの特別な言われがあるわけではなく、参拝者の中で安産が多かったから口コミで広がった」とのこと。時代は変わり、参拝者は赤ちゃんの写真を持ってお礼参りをするようになり、幸せの手引きは広く伝わっていった。信仰とは実に奥深いものなのだ。



熊野古道は数々のウォーキングツアーが企画・開催されている。女鬼峠は峠といえども高低差が少ないため、子どもにも歩きやすい道だ。ぜひ親子で歴史と自然を感じるハイキングを試みてはいかが？



写真で紡ぐたび



荷車のわだちの跡や苔むした石積み、岩を掘削して通した切り通し、如意輪観音の石像などが残り、信仰の道としての歴史を感じる。



女鬼峠は屋間でもほの暗い。千枚岩の岩盤を切通した道は、古道の歴史を感じられる。



女鬼峠をPRするゆるキャラ「めきこちゃん」。女鬼峠に住んでいて、好きな食べ物は多気町特産の次郎柿。



峠を越えてすぐ左に「展望台」標識があり、それに従って尾根筋まで上がると、紀伊山地の山々を望むことができる。

コンシェルジュからのおすすめのポイント！



三重県内の熊野古道は、伊勢神宮と熊野三山という二つの聖地を結ぶ巡礼路であり、伊勢路と呼ばれています。

田丸(度会郡玉城町)から女鬼峠(多気郡多気町)を経て、現代のJR紀勢本線に沿って東紀州地方に入り、鶴殿(南牟婁郡)へ至る約130キロの道のりです。熊野という地名から東紀州の古道が有名ですが、田丸から女鬼峠、栃原(多気郡大台町)へと抜けるコースも素晴らしいです。

平成3年と平成12年に国土交通省より「清流日本一」に選定された宮川の流を眺めたり、のどかな山村を歩いたり…川の流を友として歩くと、心も身体も清められ、いにしへのロマンに触れることができますよ。



コンシェルジュ 女鬼峠保存会の皆さん

スポット概要



女鬼峠

- 住所 多気郡多気町野中
- TEL 0598-38-1118(多気町産業環境課)
- アクセス 伊勢自動車道・勢和多気インターから車15分



このStoryをスマートフォンでもご覧いただくことができます。